

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)Tステージ長久手山野田 新築	階数	地上15F
建設地	愛知県長久手市山野田114,115,116	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	193 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年11月 予定	評価の実施日	2016年3月8日
敷地面積	1,895 m ²	作成者	大野 靖雄
建築面積	592 m ²	確認日	2016年4月4日
延床面積	4,205 m ²	確認者	岡田 一

外観/パース等

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE=1.9 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>60.2 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>14.4 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	60.2 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	14.4 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	60.2 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	14.4 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</p> <p>なし</p> <p>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
 - LR-3-1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
 - Q-2 耐用性・信頼性、Q-2-3 対応性・更新性
 - LR-2-2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
 - Q-3-1 生物環境の保全と創出
- ④地域材の活用
 - Q-3-2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
3.2 グレア対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
4.2 換気								
4.3 運用管理								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1.2 心理性・快適性								
1.3 維持管理								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
2.2 部品・部材の耐用年数								
2.4 信頼性								
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50	-	-	3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上		12ポイント		4.0	0.50	-	-	4.0
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1 建物外皮の熱負荷抑制		等級4		5.0	0.40	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化								
集合住宅以外の評価(3a.3b)				1.0	-	-	-	1.0
集合住宅の評価(3c)				5.0	1.00	-	-	5.0
省エネ等級4				3.0	-	-	-	3.0
4 効率的運用								
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-
集合住宅の評価				3.0	1.00	-	-	3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	3.0
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	3.0
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源確保								
1.1 節水		節水型便器の採用		4.0	0.40	-	-	4.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	3.0
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00	-	-	3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無				-	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	2.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-		3.0	0.20	-	-	3.0
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-		1.0	0.20	-	-	1.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05	-	-	2.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	仕上げ材の分別可能		4.0	0.24	-	-	4.0
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	3.0
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68	-	-	3.0
1 消火剤				-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	3.0
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	3.0
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮				4.4	0.33	-	-	4.4
ライフサイクルCO2概算値:64%				3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				4.0	0.50	-	-	4.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-	3.2
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	3.0
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	3.0
3 交通負荷抑制				4.0	0.25	-	-	4.0
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	3.0
適切な駐車台数の確保				3.0	0.33	-	-	3.0
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	3.0
1 騒音				3.0	1.00	-	-	3.0
2 振動				-	-	-	-	-
3 悪臭				-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	3.0
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	3.0
2 砂塵の抑制				1.0	-	-	-	1.0
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	3.0
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	3.0
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	3.0
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	3.0

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

(仮称)アステージ長久手山野田 新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.4	0.10	
② 資源の有効活用				2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	2.6	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:60.2%/建物緑化:14.37%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)Tステージ長久手U

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 計画建物は、比較的交通量の多い古戦場通りに面し、東方に低層の住宅地を望む立地にある為、搭状建物として周囲に空地を確保、環境緑化に配慮し、街並みの形成を意識した。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 遮音サッシT1を採用して音環境に配慮し、省エネ4等級・空気環境3等級を確保し、明るく清潔な室内環境を目指した。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体劣化3等級など、建物の耐用年数の向上に努め、将来の生活環境変化やニーズに伴い柔軟に対応が出来、生活にゆとりを与えられるように努めた。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物と敷地境界との間に緑地や中低木を多く設け、エントランス廻りにはシンボルとなる高木を配し、生活環境に潤いを与えられるように努めた。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネ4等級の断熱仕様、エコジョーズ給湯器の採用、共用部位分の照明を一部LED照明を採用し、環境負荷の低減に努めた。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 あいくる材、エコ商品、リサイクル商品等の利用に心がける。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 周辺環境に対し、適切な建物離隔距離をとり、緑化や中高木を配置し、環境悪化の低減を図っている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。